

別紙2

普及活動に関する令和7年度有識者会議結果報告書

1 実施日時

令和8年2月2日（月） 14時30分から16時30分

2 有識者会議の構成

区分	人数
学識経験者	1人
中小企業診断士	1人
消費者	1人
農業者	2人
農業団体職員	1人
合計	6人

3 普及活動に対する主な意見

普及活動に関する令和7年度有識者会議は、東松山農林振興センター、秩父農林振興センターが取り組んだ普及活動について意見交換を行った。

普及活動に対する主な意見は次のとおりであった。

(1) 東松山農林振興センター

課題名：若手いちご生産者のネットワークづくりと基本技術向上支援

ア 評価できる点

- ・埼玉県の一ちごが注目されている中、いちご産地として新規就農者の育成・強化を目的とした課題の設定は適切である。
- ・市町村の枠を越えたネットワークづくりに取り組んだことは評価できる。
- ・部会に属していない新規就農者は他の生産者と情報交換する機会が少ないため、情報交換を行える場としてネットワークを構築したことは評価できる。
- ・埼玉県産いちごの品質確保の観点からも、栽培の基本となる苗づくりの技術支援に取り組んだことは評価できる。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・ハウス内の環境測定データを活用し、栽培技術の向上につなげ、安定生産や食味

の向上を目指してほしい。

- ・ネットワークの構築について、指導農業士や関係機関が当初から参画していれば、より効果的に成果を上げることができた可能性もある。関係機関と連携し、新規就農者だけではなく産地全体に取組を広げ、産地の向上につなげてほしい。
- ・地域の生産者の成功事例等を有効活用し、埼玉県のいちごのブランド力を向上させてほしい。
- ・販売を切り口としてネットワークを構築することで、地域の生産者と新規就農者がつながるきっかけを作ることも検討してほしい。

(2) 秩父農林振興センター

課題名：秩父きゅうり産地の強化～持続可能なきゅうり産地の育成～

ア 評価できる点

- ・きゅうり産地において、栽培技術の高位平準化や新たな栽培技術体系の導入は重要な課題であり、課題の設定は適切である。
- ・高温による害虫の多発への対応は喫緊の課題であり、新たな防除手法として天敵農薬の導入を図り、地域として取組を行っていることは評価できる。
- ・薬剤抵抗性が発達している害虫への対応として、天敵農薬を取り入れた防除体系の導入を推進したことは評価できる。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・土壌病害虫対策は収量の確保や良品の生産につながるものであるため、関係機関と連携し、新規就農者だけでなく産地全体で取組を行ってほしい。
- ・産地の維持・拡大のためには、親元就農だけでなく新規参入者の受け入れも重要になるため、支援を検討してほしい。
- ・県内の他産地とも情報交換を図り、効果的な技術や対策を横展開してほしい。
- ・環境負荷低減の取組をPRすることで「秩父きゅうり」のブランドの維持・向上につなげてほしい。
- ・天敵農薬やB S資材等を活用して、単収を上げることができるよう技術支援を行ってほしい。